江戸名所圖會

九

農務省書圖
第九共號冊
滿印

太政官文庫
和書門
一三八七號
二一函
九架
二〇冊

内閣文庫
和書
一三八七
類號
二〇冊
九架
二六函

内閣文庫
番號 和 11387
冊數 19 (8)
函號 174 31

国立公文書館
National Archives of Japan

四谷　四谷御門の外より西の方内藤新宿のあゝり迄の惣名也里
老云此地の四方ハ谷あり故ハ四谷と号くるゝと　南向亭云ク　青麹町
地ハ谷有しが寛永十三年外廓営造の時内堀の揚土を以て東西の両谷を埋め
六七丁目の地と塩町辻
る故小平地となりしと旧名ハうしほまち塩町の入口を今も坂町と字する其
故也又古へ坂ゆく有りし頃ハ民家一軒ありて夫婦くゝしの人居住せし故ハ夫婦
と呼しと云ク
或人云ク入國の頃ハ今の糀町両側番町永田町ハ至て本多弥八郎高木九助両家
の下屋敷として下しし置れし共城近により市谷の臺此原を永代の
御誂ゆく下しし給ふ表四百八十間ハ只四人指置れしより四家と云りと
此地ハ永禄の頃霞村とよびくゝると云伝へ或云往古此地ハ武蔵
野ハ續坂ハ曠原ゆく此所彼所ハ土民の家四家あるを故
四家と云へり共いふ事跡合考ハ往古今の尾州坂町其余二所共ハ民家四軒あるしゆゑ鳴子
高井戸の方より四ッ家と称して往来ハやはりとあり屋敷表門の地及
牛頭天王社　同所傳馬町一丁目二丁目の間の左側の横小路を入く
二丁ヨリ西ハ故ハ俗字して此小路を天王横町といふ祭神素盞嗚尊本地佛ハ薬師弘法作系の一
本ハ四谷の人家開けく神主ハ芝崎氏神田明神の神主へ別當を寶藏院ゆく
よりの産土神とすると
号也　真言宗中野宝仙寺の末
祭禮ハ毎歳六月十八日同所石切町傳馬町二丁目の横町を云

国立公文書館
National Archives of Japan

旅所へ神幸あり廿一日帰輿を地主ハ稲荷明神に
共に此地の産土神と崇む（本地ハ十一面観音　行基大士の作）

鬼子母神　同所坂の下南寺町日蓮宗日宗寺に安置せり（当寺旧水谷に在て乗蓮寺と号を此地へうつされて後藤堂大学頭高次の室高見院心月日宗大姉の法号を採て山を高見と号し寺を日宗と唱へ其家より寺院再興あり）本尊鬼子母神の像ハ日法上人の彫像なり相伝ふ

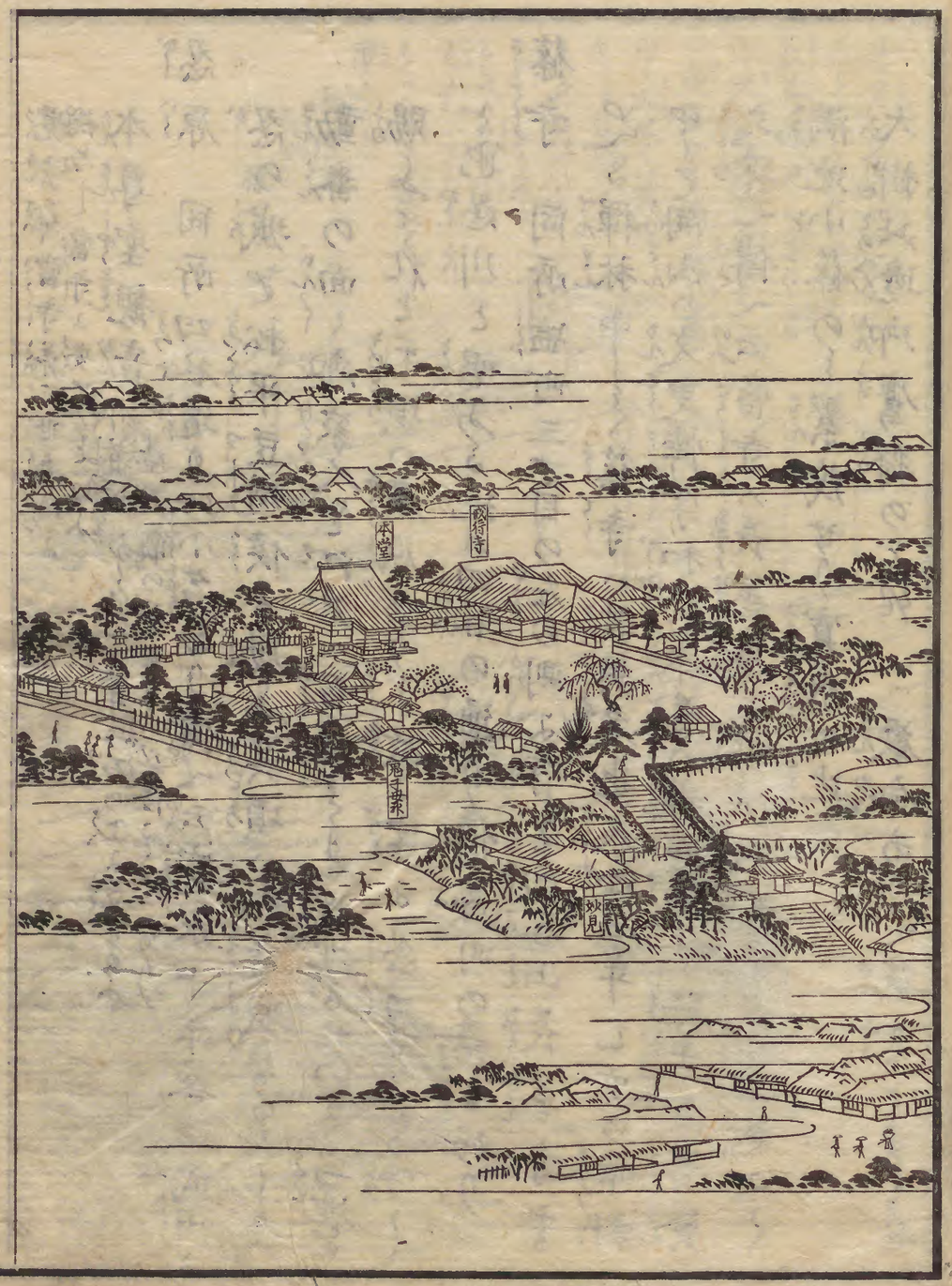
文永元年十月三日日蓮上人四十才妙君を拝せんとして旧里安房国小湊に帰る母君悦の餘に頓死せ上人大に歎て生活の祈念をせんとして先徒弟日法上人に命して此かたを造らしむ依此かたに祈願して幸に霊験あり暁蘇生して後寿を保つ事四年あり鎌倉住人鐐田氏某此霊像を傳来せしが本尊の霊応に依て享保十三年当寺に安置奉る

妙典山戒行寺　同所南に隣る日蓮宗にして延山に属せり

寛永の頃迄ハ糀町一丁目の御堀端にあり常唱題目修行の庵室なりしに近隣宮重氏庵主と共に力を合せて遂に一寺とせ当寺の日貞師ハ山本勘助晴幸入道道鬼斎の孫にして延山日悦上人の徒弟なり寛保中八十余歳にて遷化せり当寺ハ明暦に至て此地に遷さる惣門の額に妙典山と書せしに朝鮮国李彦の書し此所の坂を戒行寺坂又其下の谷を戒行寺谷と唱へ来り

分身鬼子母神（寺中圓立院に安置せり朝の作なり四谷北伊賀町永田安斎氏医師の家に傳来せ来由ハ長くれハ爰に略して記さず）

汐干観世音菩薩　同所南寺町戒行寺の裏の坂口真言宗錦敬山真成院にあり此かたを越後国村上義清の守佛なりしを其末流村上兵部入道道樂斎大坂御陣の時上杉景勝に従ひ奥州米澤より彼地に赴く後江戸に帰りて当寺に収むるといへり（或人云く此かたを塩踏観世音と号く村上天皇護身の像と依て村上肥後守頼清常に崇信し後堂宇を造て安置せ大坂御陣の時村上


本堂
戒行寺
妙見

日宗寺
戒行寺
汐干観音
本堂
聖天
観音堂

覚玄和尚当寺第三世看心より
拵与し当寺ふ安置すと
本尊聖観音作者詳ならず一尺斗の石の上より立せるよ
此臺石潮の盈虚よハ必湿くなり

忍原　同所四谷通りの小名あり傳へ云寛永十年癸酉武州
忍の城を松平豆州侯より賜ふ其頃ハ御番城なりしハ
勤番の面々御家人を江戸へ召帰さるゝ此地より地所宅地を
賜ふされと其頃ハ廣原ありし故より字を忍原と呼し
と也忍川と唱ふる地ハ四谷の通り傳馬町の西よりの

篠寺　同所塩町三丁目の左の側より有り四谷山長善寺也
とゝる禪林ゆゑ篠寺ハ其異名也天正三年乙亥の草創
ゆゑ開山ハ文叟憐学和尚本尊ハ釋迦如来脇士ハ普賢
文殊と傳へ云當寺ハ長善庵と呼ひ形ちゝの草庵ゆゑ
満地小篠の繁茂せり寛永の比
大樹此邊御鷹狩のとき
厳命ありて篠寺とよそせ

篠寺と云ハ四谷塩町の通り道より左の傍ふあり
長善禪寺と号く昔
徳放鷹の頃当寺ゆゑの庵室ゆゑ満庭小篠
の繁茂せ繁茂せ
よりせゆゑ
字とよ
堂前ふ方三尺
をゝりの小篠の
限ありて
其燈を
永世よ
標せり

あり此地を寺境よりあるより後此名あり故よ事證として今を
堂前よ方三尺斗の地ふ小篠の隈ひのを總門の額よ笹寺と書
せしハ永平寺兼天和尚の筆なり
四谷大水戸又大関戸と作る甲州及ひ青梅への街道なり土俗云霞ゟ関
或ハ旭の関ゟ云と後御入國の頃迄ハ此地の左右ハ谷ゆく
一筋道あり此開ゆて往還の人を乱問せゝる近頃を江戸
より附出を駄賃馬の荷物送状あきを通さゝもしゝとなり
今も猶駄賃馬の荷鞍あきをハ江戸宿又ハ荷問屋等ゟ手
形を出しゝて通るを其遺風あり故ゆゝこゝ番屋ハ町の
持あれゝ突棒指朕鋏ふを飾置を是往古開のあるし時の
遺風あゝん又同所西の方ゟ往還の道を横ゝゝて石橋ゟ
下を右へ流るゝ小溝を櫻川とよへり
内藤新宿　甲州街道の官驛あり此地ハ旧内藤家の第宅の地あり
ゝ後町屋とある故よ名とす

日本橋より高井土迄の行程凡四里餘を人馬共よ労
を依て元禄の頃此地の土人　官府ふ訴へく新よ駅舎を取立る
故ふ新宿の名有り然ゝとゝを故有りて享保の始廃亡せゝ
又明和九年壬辰再ひ公許を願く駅舎を再興し今ゝを繁
昌の地となるゝ　一里廿五町あり高井戸へ追分とゝハ同所甲州街道ハ
王子通及ひ青梅ふへの分道あるハなり
霞関山大宗寺　内藤新宿右側中程大水戸より二丁餘ふ有り
浄土宗ゆゝて縁山よ属を本尊ハ阿弥陀如来ふて恵心僧都の
作開山念誉故心学玄和尚と号昔ハ別ゝある草庵なり
ゝを寛永の頃内藤大和守重頼此地を賜ゝ時此地よ
住る道心者あるゝふ重頼若干の地を与へらるゝ廣敷あるを
以く大宗なりと云ゝハ重頼とりあゝをゝんふハ寺号を大宗と
付よとありゝより号とすと當寺牌堂の本尊弥陀善逝の像ハ

四谷大木戸
五十あて、
嵐雪

四谷
内藤新驛
味噌

鎌倉佛師の作なりとのへり　齊藤伊勢守二親菩提の為と記しとあり　此齊藤とは代々鎌倉に仕へし齊藤禪門

淨圓寺　門の内に沙門正元坊造立せし銅像の地蔵あり

江戸六地蔵の第二番目なり

護本山天龍寺　同所追分より南の方甲州街道北左にあり

濟家の禪寺にして本尊千手觀音開山は春屋和尚なり當寺

其先は遠州の天龍川の辺にありしを後江戸に迁し牛込に

ひらきし天和三年癸亥二月十六日火災にかゝり竟に此地に

たり　延宝の江戸図に依て考るに今の牛込佐渡町の境内に地蔵

西馬場のある地を旧跡なりと今も元天竜寺前とかり

堂と觀音堂有り又構の内に一里塚有り

鮫河橋　紀州公御中館の後西南の方坂の下を流る小溝に

架せる橋を云今此辺の惣名とかり里諺に昔此地海につき

たりしかは鮫の多かりしゆへ名とせしとのへり　証とせるはたゝ

或人云く天和二年公家の日記録に上一木村鮫橋とありと云ゝ然時は此

辺も一木の内なりと沙門又佐目河に作る千駄ヶ谷寂光寺鐘の銘に鮫

村ともあり

鳥の跡

茂睡

永固山一行院　駿河橋の西の方千日谷に在て浄土宗なり

開山ハ源蓮社本誉利覚和尚とて慶長年間草創せ昔ハ

僅の草庵なりしを永井家開基して一宇の浄刹とせ開

山利覚和尚ハ則永井信濃守尚政に仕へしるゝ剃染して

此地に庵をむすび千日の間常行念佛をせ結願の時千日

不退轉の回向を勤む依て道俗群集せしより千日寺と

唱へ又此所を千日谷と呼ふなり　紫の一本とゝる冊子にさあり

日谷といふ　永井家の屋敷ある故なるへし　橋を渡て信濃原へ移谷を千

今ハ信濃町とゝのひ又永井原とも云と云

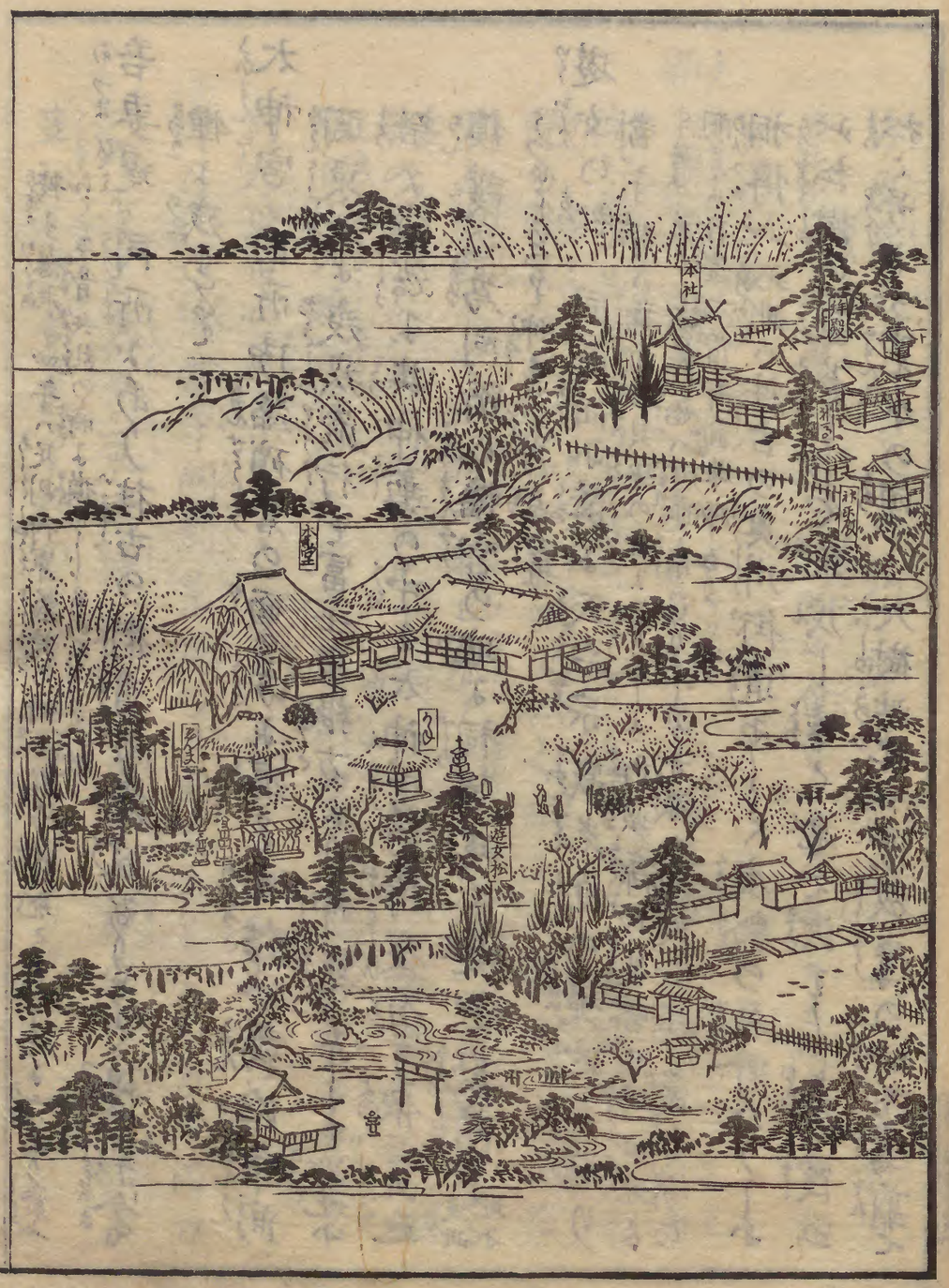
阿弥陀佛銅像　権太原浄家長禅寺境内に在りて是を五尺

ばかりの佛像の脊に應永十四年丁亥八月廿五日と彫付てあり

旧東本願寺の佛ゆへ大坂の御城内にありしを寛永の頃

江戸に移し當寺に安置せり

権太原
長禅寺



国立公文書館
National Archives of Japan

吾妻堤　同所より往古の街道の餘波なりとて堤の形今も僅に残りて

（按に應永十四年に足利将軍義持の時世なり佛躯に穴あり疑ふ昔兵乱の時に損せしものなん歟）

太神宮　同所御殿硝倉の西の方に有て相伝ふ萬治年間関東大に疫疾流行せ富士の根方より神送りせしこと此地に祭る如然に其神輿の中に太神宮の御袴有り依て此地鎮護の為同所八幡宮の地に祠を建て是を勧請せ後此地に

（神主は小川氏なり）

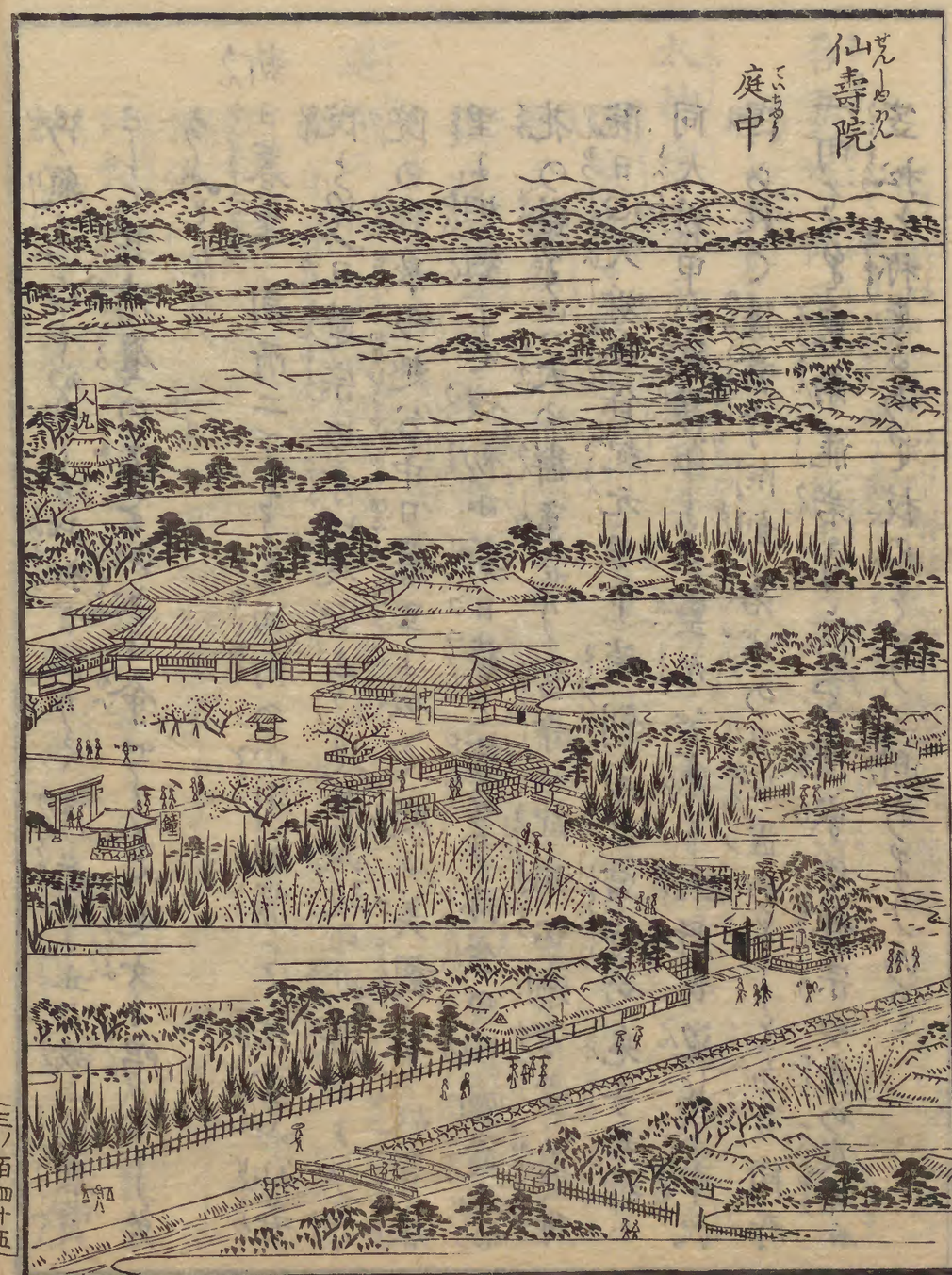
遊女の松　同所西に隣る天台宗寂光寺の境地に有り

（開基は自證大僧都圓雄師なり）

當寺昔は劉町の貝塚の地にあり（始は日蓮宗なりしを元禄の頃天台宗に改む今の寺）

相傳ふ此地は往古の奥州街道にして廣野の原野なりしに此松樹の鬱蒼として栄茂し遠く見え渡りて霞の松と号しを寛永の頃大樹此地に御放鷹の時に鷹翦て御氣色あしかりしに此松に御拳に止る故に御褒賞として其御鷹の名を此松に命せられ遊女と唱へしを

新日暮里　同所二丁目に西南の小川を隔て法雲山仙寿院と号す日蓮宗の寺にて庭を構へ此辺の地勢を以て寺院の林泉の趣谷中日暮里に似く頗る美観なり故に日暮里に相對して假初に新日暮と字せり弥生の頃爛漫なる花の盛なるは大に群集せり當寺は紀州公御母堂養珠院日心大姉正保紀元甲申草創あり當寺の鬼子母神は同大姉甲の延嶺ゆゑに霊応を感じ大野の辺の土中に得られて後當寺開創落成の日安置あるなり同所一町に東南龍岩寺と号る濟家の禅宗の寺の庭中に笠松と称するあり枝の長さ三間あまりひろ



国立公文書館
National Archives of Japan

竜岩寺庭中

国立公文書館
National Archives of Japan

千駄ヶ谷観音堂　寂光寺より二町ばかり西北の方にあり観
谷山聖輪寺と号くる真言宗の寺に安置せ
本尊如意輪観音は當寺開山行基大士の彫像やて侍文
三尺五寸あり世俗目玉の観音と字しまる往古慶長三年の
春盗賊来り此地の橋氏某目のあらざり是を
驚歎し堂宇を再興す此ある里民目玉の観音と字したてまつりし
かるる縁起よりも菊岡沾涼翁の説に江戸寺院の中千有余歳を歴しに
當寺を浅草寺と云へり
縁起曰神亀二年乙丑行基大士東國遊化の頃同年初夏
より暫く此地に息ひ給ふ時に如意輪観世音傍の谷より
出現し給ひ大士に霊示あり依て佛意に應じかこれ
し古株を佛材とし此かを彫刻しまる故に観谷聖輪
の号ありとのへり
千駄ヶ谷八幡宮　同所一丁許西にあり此辺の惣鎮守や
例祭は九月廿七日なり別當は真言宗高雲山瑞圓寺
と号く
鈴懸松　門前に松の老樹有り寛永の頃　大樹此地に放鷹の時
鷲の鈴此松の枝に掛よる名とす
社記云往昔此地深林の中に時とし瑞雲現しる又
或時碧空より白氣降雲上に散せ村民怪むに彼
林の下に至る忽然として白鳩数多西をさして飛れを
依て其霊瑞を称し小祠を営み名つけて鳩森と云貞観
二年慈覚大師東國遊化の頃村民等大師に鳩森の神
躰を乞求む依て宇佐八幡宮城州鳩の嶺に移るの
古を思ひ神功皇后應神天皇春日明神なるの躰を
作て添て正八幡宮と崇めの遥に後久寿年間渋谷
正俊領地に鎮座の御神なるを以て金王丸生前随身の
本尊恵心僧都の作の弥陀如来の像を本地佛とし社を

国立公文書館
National Archives of Japan

神輿殿
本社
白山
鶴ヶ岡松

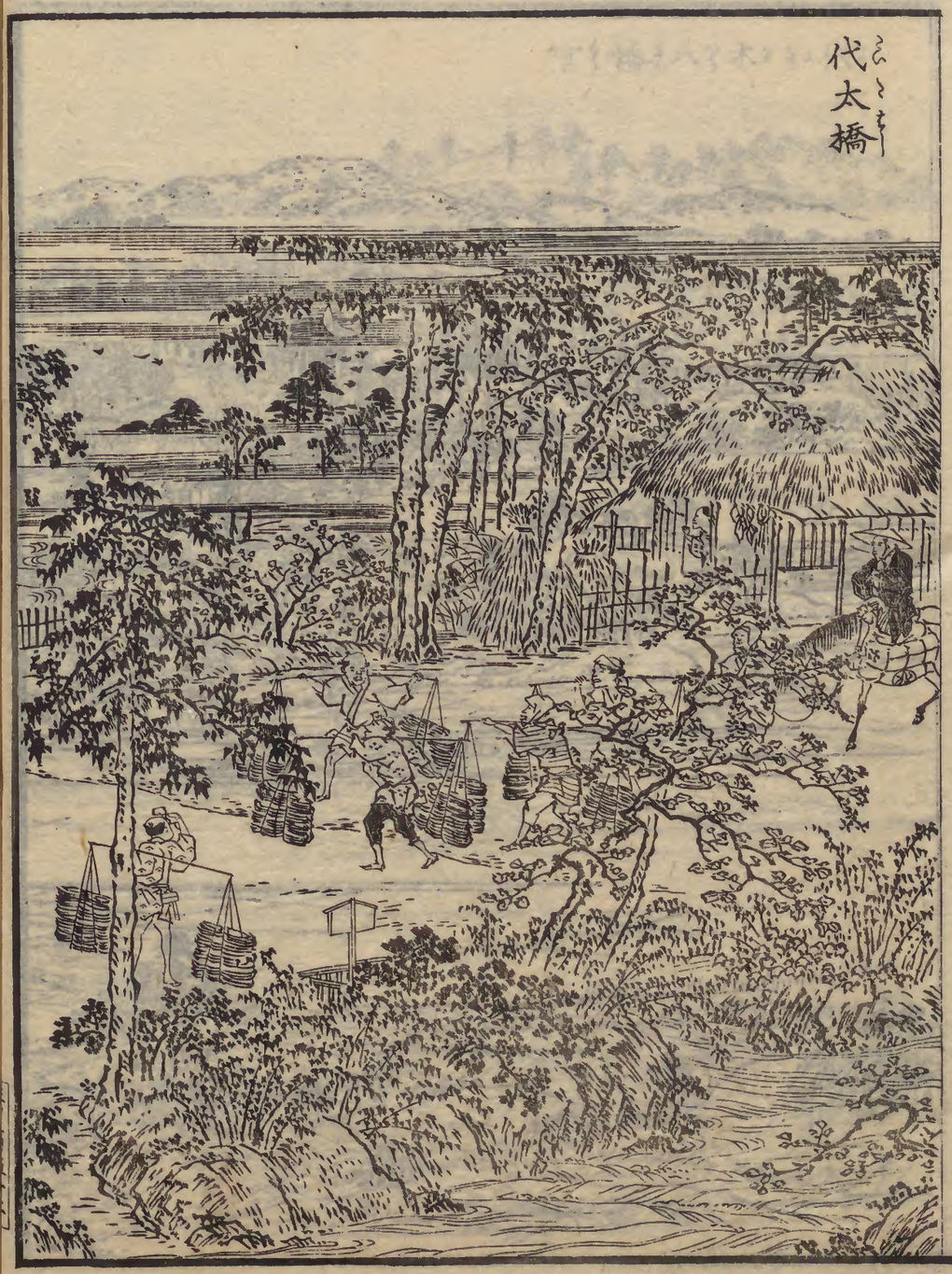
千駄ヶ谷八幡宮
表門
裏門

造営して此地の生土神と称し奉りより霊應ハ聡と
日よ新あり（南向亭云く當社の前路ハ鎌倉街道の旧跡なり今も清山の原宿より此地をへて大窪へかゝり
所領の中ハ千駄ヶ谷の名有り北条家分限帳島津孫四郎無倉路と字せり）

代〻木野八幡宮　同西の方代〻木野よりの此野も武蔵野の中なり祭禮ハ
九月廿三日よ修行を別當ハ天台宗ゆゑ宝珠山福泉寺智
妙院と号せ（古ハ知明と作る）
相傳ふ當社ハ往古源頼家公の旗下なりしる近藤三郎
是茂の家人荒井外記智明なる者故ありて相州を退き
此代〻木野よ蟄居し宗友と名を改め年月を送り八幡
宮ハ本國の産土神なゝゆゑより常よる信怠るなし
然よ建暦二年八月十五日の夜夢中よ鶴ヶ岡八幡宮の
霊示あり〻宝珠の鏡を感得せ依て同九月廿三日
此地を求わく荊棘を拂ひ小祠を営むて初く鶴ヶ岡

八幡宮を勧請し奉る
鞍懸松　同所の岡よ在り傳へ云源義家朝臣奥州征伐の
頃此地よ陣を取此松樹の枝ふ鞍をかけらるゝより此
名ありといふ（江戸鹿子ハ八題を頼朝卿へ冊る）
代太橋　甲州街道萩窪の立場より三丁あまり先の方松
原赤堤泉廻り代太等の五箇村入合の辻よりして曲折せる
ふの道路を横切〻流る小川ふ架せる橋より右よ添て流る
橋下水流　橋上ふ土を覆ふふ形顕はし此橋下を流れ
左右よ設れ　四谷内茶新宿　磨川の上水なり
高井戸　此所も甲州街道ゆゑ〻驛舎あり
八二里一丁あり八王子ハ此所ハ下高井戸ハ上高井戸ハ此所より
西よあり小田原北条家の分限帳よ大橋氏某の所領に
無連　高井堂とあり（無連ハ孔高井堂ハ此地のものゆゑ道與淮后の田國雜記ふ堀兼の井ふ無連の井此地よあり今ハ
下高井戸ハ和名抄四巻埴兼井の郡下よ詳なり）

代々木八幡宮
本社
天神



鬼子母神　下高井戸の道清月山覚蔵寺とゝなる日蓮宗の寺に安置す鬼子母神の霊像ハ宗祖大士の作ゆゝく佛像の脊ハ建長五年癸丑八月八日日蓮刻之とあり

縁起曰文永八年九月十二日日蓮大士相州龍口よりのがれ大士歓喜のあまり建長五年の夏始て妙法蓮華経の首題を唱へ始めゝ頃一人の老女あり胡麻の飯を供せり大士歓喜のあまり建長五年の夏始て妙法蓮華経の首題を唱へ始めゝ頃一人の老女あり胡麻の飯を供せり大士歓喜のあまり建長

造ある自然の法流守護の鬼子母神の霊像を彼老女に授ちしかの老女ハ

福田村とゝなる安田武左衛門ことゝなる農民あり則老女を家に

此霊像を伝ハ時に享保十八年癸丑五月此霊像出現の所ハ俗家にあり依て当寺第十世の住僧日曜師

鎌倉杉葉谷妙法寺に在せ頃彼武左衛門此霊像を携へ来り来由を告て

日曜師に附属せり然に日曜師当寺の破壊を歎き寺院再興のため愛に移

住せ頃当寺へ迁しまのせしと云

布多里　今一所渭布田邑是なり布田或布多小作る此地布多天神社

此地ハ甲州街道ゆゝく上下とゝ分れゝ制札ゆゝ補陀郷と有

武蔵國風土記曰多磨郡布田或新田公穀三百七十二束三字田假粟

爾二百十三丸三字田　貢薇蕨譜草菜及禽魚等

尓布田川　出鮎鮒鮒等云云

国立公文書館
National Archives of Japan

和名類聚抄曰　武蔵國多磨郡　新田尓布多云云

按ず風土記ず和の雨布田及び和名抄ず載る和の新田共ず此地の
ずを云なるべし後世上略して尓布多を布田とそも唱へしるべし又風
土記ず尓布田川の名あれども今考へべし

万葉

多麻河泊尓左良須氐豆久利佐良左良尓奈仁
曾許能兒乃巳許太可奈之伎

家集

白雲の立ちそつる白根の朝霧をつくるとあぬ山河の里　定家

按ず万葉集多磨を多麻ず作る布田ず又古ハ布多とも往古麻の布を
多く産せしより假字ずハあれども意を含て麻ず作る布田ず毎國朝廷へ調布を
國の南ハ此地より西南ず風土記多麻川の条下ず里人調布を作り
と貢せしず國史等ず詳ず當國ず納とあり然るハ此國より貢ず処の調布ハ當國ず産するものを
内蔵寮ず集めず此川辺ゆく所司の使へ分せしるべし
依て多麻川の水流を考へるに府中の辺より水源ハ所沢狭山
多く布田より下流ハ鄙海ず近きゆえ潮の盈虧あり調布ず便ず
よろしきたく此布田の辺の廣狭水流の宜しきず実ず布と
よろしきといふる故ず合せ考へるに此辺実踏かたく又云奥
歳三月の頃より七八月ず童兒等唄似て躍り歩行ずあり
其形勢及び唄ひ物の言葉ず調布のことをもるとす

布多天神社

此川の流のすえハ何処迄とかの布を流すとハ海まで

又云

あのゝハヤ紅屋の子ハいろもかゝ紅後をさゝ一ぬひ
いつ深さ瀬ひ瀬よ浅くも流すも深くもうえ
浅ゝ名ゝうえくまの用夜をゝひそよ

又云

強盗の鶴う二三羽まん日ひち通ひやゝ山義くゝと鶴て
ゝか川流ふ行の用さしあけさうゝ鶴とあとこう
ゝめえゝゝ

此唄ひもの古をゝひあハそふ足まり附て云此地より西舟中まその間よ染屋邑と称する地あり是も古往うさの家多くおりく調布を染と染殺別当安房上野局よ仰付らる糸所別当のハ近瀬局これとなると
あるも此辺のをゝ按よ東鑑建久六年七月廿八日の条下ゝ武蔵國
と訓す同書よ今按よ俗よ手作布の三字を用ゆると云く調布も和名
抄よ豆岐の沼能とあるく貢よあるを布のをゝ

布多天神社　上布多驛舎の辺より右の方四丁ゝとふあり別当ハ
真言宗ゆゝく廣福山采法寺と号ス浅尾王禅寺よ殿す　祭禮ゝ隔年
九月二十五日よ修行す当社祭神詳なゝス今菅神を相殿に
勧請ゝく二座ゝス当社昔ハ多磨川の岸頭よありしゝ洪水の
難よ罹るの後今の地へ迁すとゝり

延喜式神名記曰　武蔵國多磨郡

布田天神社云云

虎柏神社　同所北の方十丁計を隔て佐須村ゝあり佐須ハ古
却の姓なりしを後地名よ呼ぶ当社の神
その遠裔此地の里云ゝ連綿ゝ今も
社前ゝ古松二株鬱叢と
聳ゝ九月十三日を以く祭祀の辰とゝり

武蔵國風土記曰　武蔵國多磨郡狛江郷
虎柏神社　圭田七十三束　所祭大歳御祖神也
崇峻天皇二年己酉八月始祭事有之云云

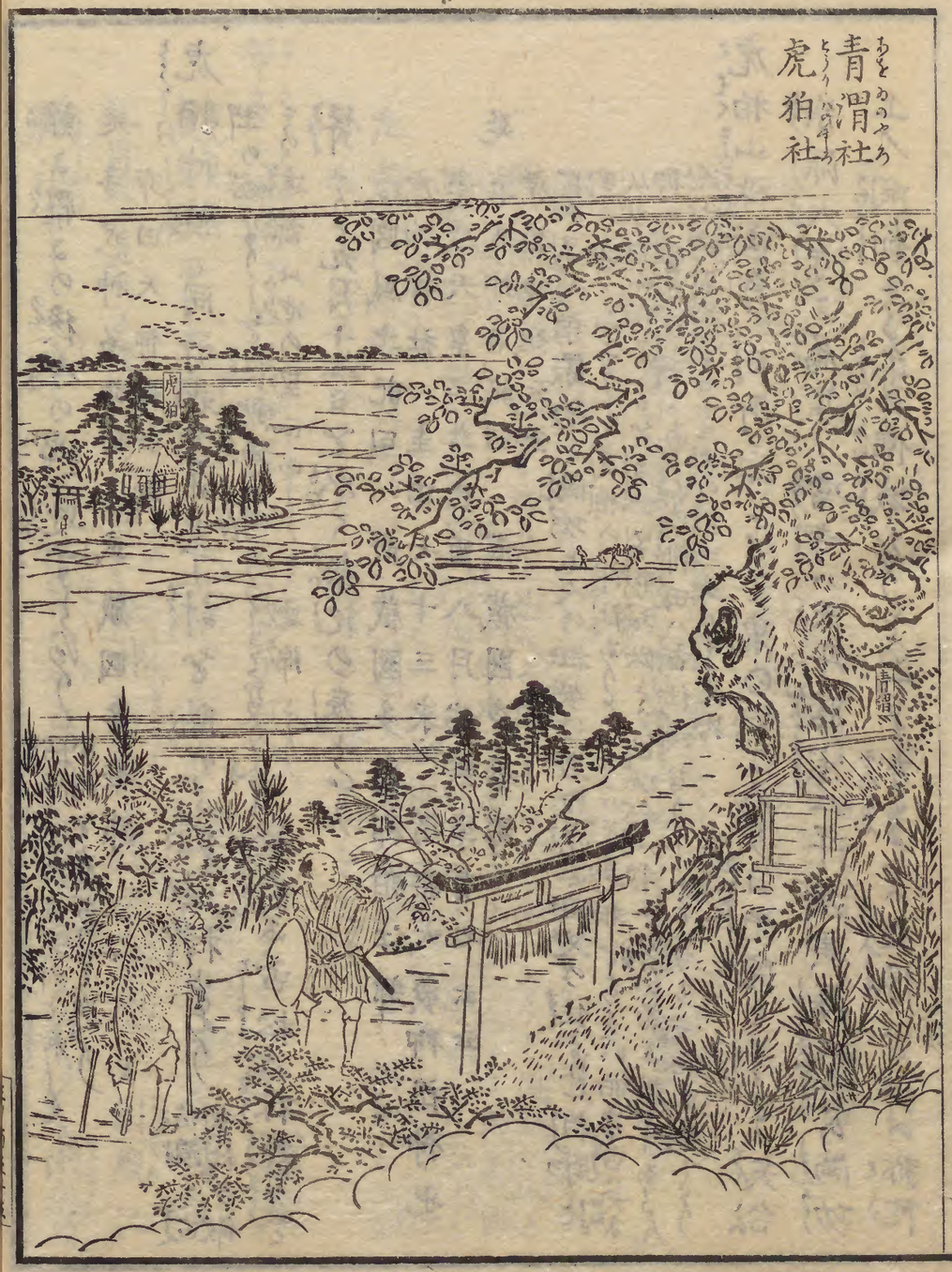
延喜式神名記曰　武蔵國多磨郡

虎柏神社云云

按ふ深大寺縁起よ満功上人の祖母の名の虎と祖父の住し柏野北
里の名とふよりく虎柏の神社ありと云ゝ是非を定ゝス柏字の古ハ白
从ひ柏ハ作又当社の南よあるを後世字形おゝ今ハ誤ハ从ひ泊ハ誤なるゝん
風土記よ挙る七十三束の耕田ハ吉社領なりしとて今も宮田と称へくり

虎柏山祇園寺　同所三丁ゝとゝ東の方よあり日光院と号す天台
宗深大寺よ属せり当寺ハ天平勝宝二年庚寅深大寺の満功
上人開創ゝるゝの佛域なりとゝ本尊ゝるゝハ立像二尺計の弥陀

青渭社
虎狛社

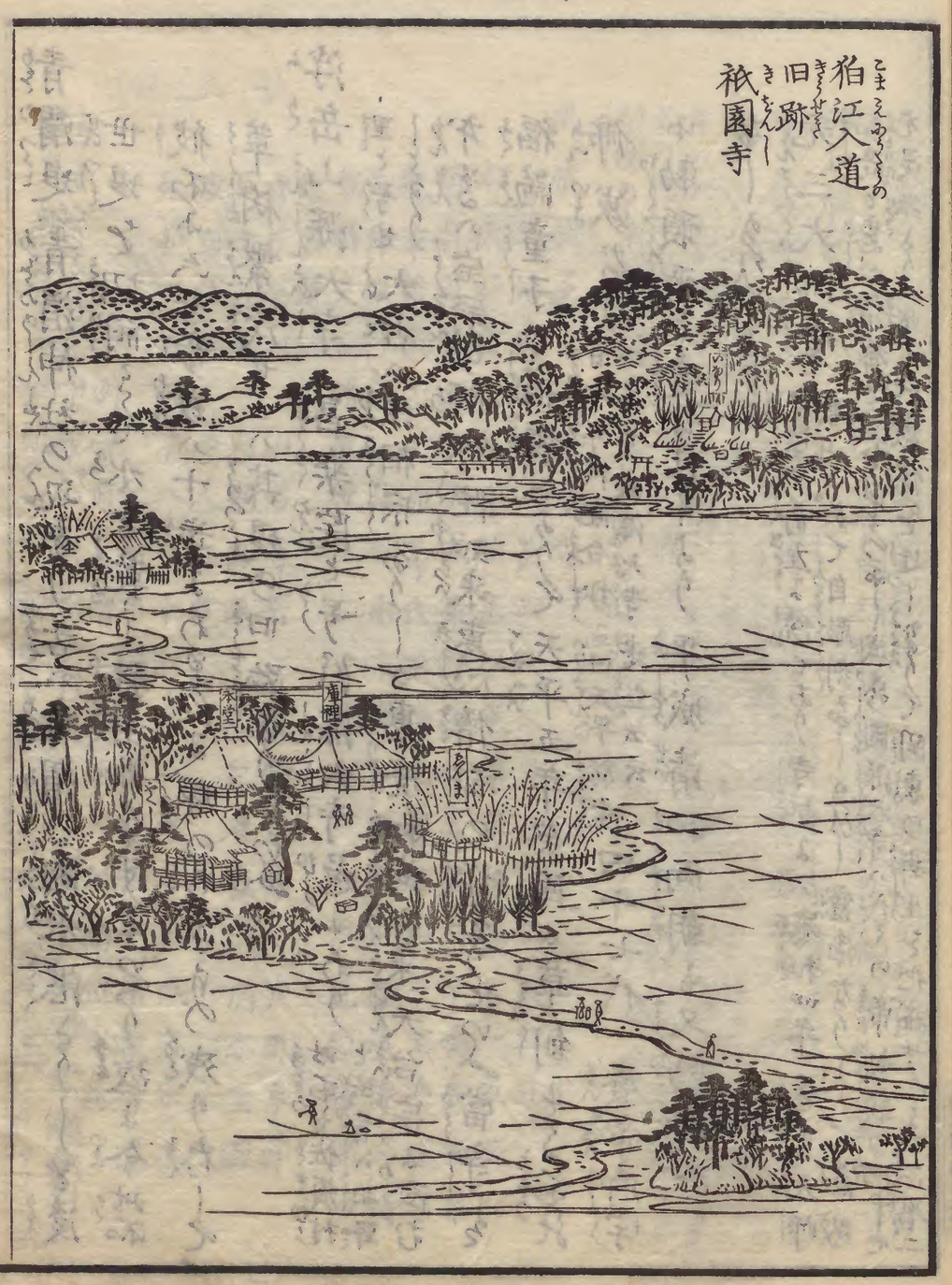


如来の木佛を安置す 作者未詳 本堂の向拜ゆ掲るゆの虎柏山の三大字ハ筆者を志らず

藥師堂 本堂の前右の方ゆ藥師佛ハ立像御長一尺佛龕の内ゆ弘法大師の真跡の般若心経を収むさるなりく行基大士の彫造なりと云へり

此堂宇二百有餘年さるゝ前を八此地より東南の方三四十歩を隔て耕田の中ゆありしとなり 今ゆ古菜師堂と其頃屢賊の為ゆ佛器の類ひを奪ハれしゆハ終ゆ祇園寺の境内ゆ迂せしとなり 今菜師堂より一丁程南ゆ菜師堂面と字して一反六畝そゝの除地あり鎌倉時世より前ゆ附せる不なるゆ土人彼へ傳へり

狛江入道旧館地 祇園寺より艮の方六七町を隔て二百歩あまりの岡なり空堀の形なと嚴然として残り此地ゆ入道崇むる所の稲荷の小祠あり土人里の稲荷と称す祠前柾の老樹一株六圍よあるゆの存せり 東鑑ゆ寿元二年戊辰七月十五日狛江入道増西悪黨五十余人を率ひ武蔵國威光寺領内ゆ乱入し田を刈痕籍ゆ及ふ由院主の僧圓海



訛りとのなり を挙こり 刈本伯江小作るハ伯江を誤りとのなり ん 又云
こふ伯江入道と云伝るも此増西のなりといつるこ 又同書小建久元年庚戌
十一月七日二品入落供奉の人名の内小駒江平四郎といふ名を注す
按ふ 續日本後紀小仁明天皇の美和十一年甲子五月武蔵國多磨郡伯江
郷より節婦を出すを載られつる刈本猪江より作るハ伯を誤れるの必
武蔵國風土記残編も多磨郡の内ふ伯江郷といふる地名を知ず
和名類聚抄小同郡の郷名ふ伯江とあるこ古の江と訓すこれと此の
地を今ハ佐須村と称ふこ多磨川の北字奈根村小隣るこ駒井邑と
呼ふ地あり恐らくハ伯江の郷の北訛なるべし北条家分限帳ふ駒井の旧地あるこ
駒井本郷太田新六郎知久の内ふあり此不多波川の北

青渭神社 虎柏神社より北の方深大寺村の中ふあり 土人

此地を字こ天神ゝ谷戸とこと祭神詳ならん世こ
青波天神こと称せり相伝ふ古ハ社前ふ湖水ありしこ
青波の称ありと社前槻の老樹あり 数百餘霜を経こ
とのなり

延喜式 神名帳曰 武蔵國多磨郡

青渭神社 云云

按ふ神名帳ふ青渭とあるこ今本阿遠伊と訓す土人云古當社の前ハ湖
水満こり故小青波の称あり今青波小作る阿遠葉と訓るハ
擬あるふ仮こり 祝同巻 青沼明神の条下と亥照てこ

青渭堤　青渭神社の辺り古ハ青渭の湖水湛へ浸
世堤を切開き水を乾し耕田とあすといへり故ハ今此和
彼和ハ六七歩或ハ十歩よりあまれる塚のめぐりの残り存し
草樹繁茂せるハ其堤の旧跡ありといふ

浮岳山深大寺　昌樂院と号ス深大寺邑ハ佐須村と云ふ此和も昔ハ柏野
里と号せ大古ハ法相宗ありしを恵亮和尚以来天台宗ハ改む
かるハ宝冠の阿弥陀如来恵心僧都の作ありといふ当寺を
福満童子の宿願ゆゑ天平五年癸酉ハ草創せる和
佛威なり　日本年代配合鈔ハ曰天平勝宝四十七代　廢帝淳宇
二年庚寅深大寺建立云云
ハ勅願所と定られしより平城清和両朝も又勅願所と
なしかしこ云

元三大師堂　本堂の前左ハ傍てあり寺記ハ云憲和四年慈恵大師
叡山ハ於て自彫刻あり霊像なりしと慈忍
和尚と恵心僧都と心をひとつゆ武蔵国深大寺ハ代々の帝勅願の地ゆ
た霊跡ハ永く此影像を迎へ関東の群生を化益せんとそ正暦二

年の春こゝ安置あるを尔来霊験
の十八日ハ別業護摩供を修行あるゝ故ハ近郷の人群参せり此日門
前ハ市を立る

降魔尊像　先の霊像と共ハ叡山ハ当寺ハ迂座五大なる石大師堂の北の
中ハ水旱魃ゆ減ずるの水を汲干んとす云ふ昔此山崖あと崩
年ハ此不ふ来る土人旱魃の要石際清泉の
宮の傍ハあり昔此山崖あと崩
頂の寺主行念此石を建て要石と号云

鐘楼　大師堂の山上ハあり

武蔵國多東郡深大寺

奉治鋳槌鐘長四尺三寸口二尺三寸
右伏以當山蒲牢開基以来華更其數不一或雖冶
鋳有破裂而無声或雖討得有薄畧而不鳴爰緇素
數輩競勤力迦命皇風永煽佛日弥明伽藍鎮静法輪
天降臨仰願皇主二世善願一切成就仍昭銘功
常轉更乞諸檀施主
德其辭曰
新鑄鳧鐘　声形卓犖
驚起塵夢　消除煩濁
滅罪生善　令人正覚
百千万劫　定期邀
寺号深大　山名浮岳
永和二年丙辰八月十五日　大工山城守宗光
大行事院主法印権少僧都辯運
僧正法印大和尚位守慧

亀島辯財天祠　別當前大門前左の方の池の中島ハあり縁起ハ所謂福満童子を
脊負て渉せ霊亀をして渡ふ満功上人船天ふ崇られしと云

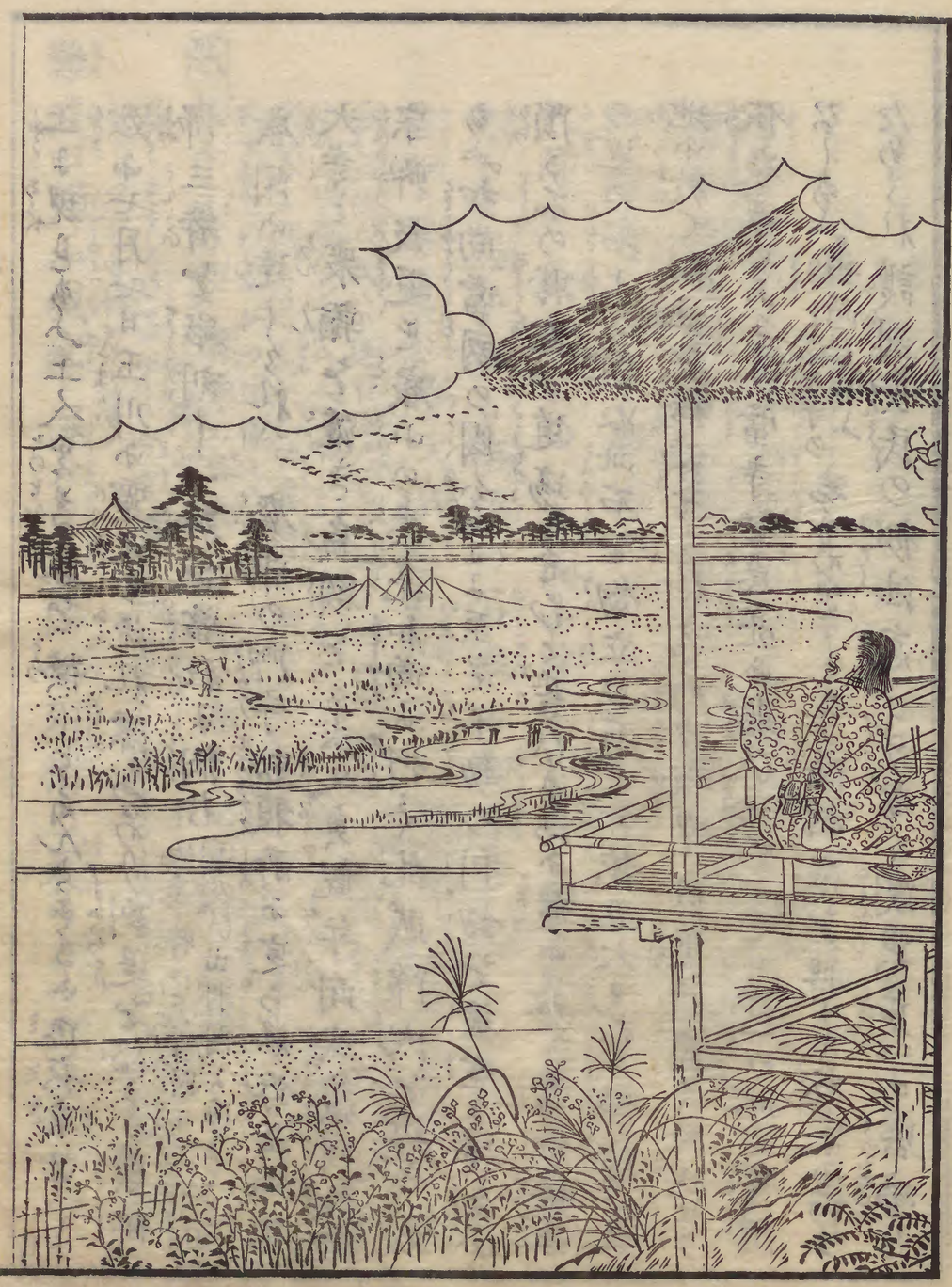
蘇我大王
福法
山王
理乙
大

深ゑ大寺
鐘
いろり
要石
天ゑ石
大師堂
本堂
庫裡
蘇我大王

毘沙門天吉祥天社　昔は各別社なれども後世天の相殿に合祭すと
福満童子は毘沙門天の化身吉祥天は縁起に
の童女をあらわす際並木に相對す　縁起曰天平五年癸酉満功上人此地に當社を
深砂大王社　大門　深大の二字を採て寺号とし一宇を草創せり
東照大權現宮及び八幡宮　往古深砂大王影向池
八幡　權現を相殿とす　社の西にあり往古深砂大王影向ありし日照と
云伝へ池中一つの霊石あり　往古惠亮和尚當國に勝地を求めんとして
同し池のほとりにあり　往古惠亮和尚當國に勝地を求めんとして
劍立石　當國の國分寺に至り不動の利劍を虚空に擲ぬ此石
上に立り此号あり　同所
福満童子祠　深砂大王の祠前　仁王塚　同所社前
右の於に往古塔ありしと伝へ西へ登坂と塔坂と
の道を一丁ばかり遊ひて
二王塚と字す　相伝　昔何某の子当寺二王門の迎に遊ひて
姿を見失ひ人々怪しみ山大に騒動す　児を呑
其児の母着たりしの衣服残り二王塚の号あり
王の像とこころ門を破却し土中に埋やうしより
縁起曰　聖武天皇の御宇武蔵國多磨郡柏野村に猟師あり
柏野村今佐須村　名を右近と云へり年頃山に入水に臨むて殺生を業とす
ある時もことの女来て妻とする名を虎と云へり此妻
常に夫をいましめて殺生をとゝむ右近は妻のいふに隨ひ竟に

狩漁を止む其後一人の娘を儲けつゝかしつくるに大くあんに
早く生長のもとり然に福満と唱へる童子あり此娘に逢初に
れは父母大に怒かたるも賤しき人にあらせんとの意なり
とて二人の中をさけ娘をは此里の池の中島に家を営かしに
居しむ福満は日毎に岸に至て是を歎くことかたし昔
をもこしの玄牡三蔵渡天の時流砂川に至て佛を念せしに
深砂王現身の川を渉しるを思ひて一心に念しれは
一の霊亀浮出ぬ福満は甲に乗て島に至り娘にあうを
得たり父母後に此事を聞て神明の冥助あるを知て随喜
して娘を福満に妻あはせられは竟に一人の男子をまうけ父母の
願ゆるして此兒出家し満功上人と云へり後に渡天大乗
法相の旨を伝へて帰朝し天平五年癸酉父の本誓により
深砂大王の社を建立し當寺を創せ時神霊水中に岩

深大寺蕎麥
當寺の名産
中にて
味ひ尤
佳あり
都下に
稱して
深大寺
蕎麥
といふ



上より現ぜるゝ容を摸しとゝめんとそゝるゝに衣木なし
然ゝ七月七日玉川ゝ霊木の流れ漂ゝあり則是をもつて薬師
佛三躰を彫刻し一躰を當社ゝ納む（餘二躰ハ下野國日光山及び出羽國ゝあり）此由
叡聞ゝ達しゝれハ　廢帝の御宇勅願所ゝ定られ浮岳山深
大寺と震翰を灑き扁額をゝ又貞観年間武蔵國司藏
宗卿叛逆を叡山の恵亮和尚ゝ仰せく乱賊降伏を祈らゝ
ゝ和尚當國の國分寺ゝ至て不動の利劒を虚空ゝ投ゝひ
隕るゝの勝地を道場とせんと誓ひゝ遥ゝ遥て當寺井泉
の辺の石上ゝ隕ぬ此石を劒立の石と云依五大ゝを勧請し此
地ゝ於て秘法を修練せしゝゝ行力空しゝゝ逆徒悉く降伏せり
依叡感のあり當寺を恵亮ゝ賜ひ此ゝゝて七邑の地を寄附
なしゝゝ（是を深大寺の七邑と唱ふ）ゝあるし法相宗を摂し合宗ゝ
ためしゝ護國安民の秘法怠るゝなく関東第一の密場と
なるより（昔ハ十二字の塔頭あり大伽藍なりしと）度々の兵火ゝ焼ひ今ハ昔ゝ違て
ゝく灰燼とあり世田谷の吉良家深く信し再ひ
堂宇を営み波平行安の刀を寄附す（無銘長四尺五寸あり）
繪巻物并詞書二巻　参議右中将藤原公尹卿筆
抑當寺ハ関東融通念佛最初弘通の道場ゝ慈眼
大師　大猷公の　上聞ゝ達し融通念佛百遍を
受せ賜ひ忝も結縁の名帳ゝ御諱を記させひぬるゝ
當寺融通念佛の縁起ゝ詳なり（此念佛ハ大原の良忍上人現ゝ如来の示教を受て弘通しゝゝ）
（法や或ハ十返百返乃至十返万返を日課とし我唱ふる所の称名の功徳ハ自らの為として互ゝ融通し自他平等ゝ修する所の称名の功徳廣大無辺なり）
（他の人の唱ふる所の称名の功徳ハ天王もこの念仏の結縁ゝ入るひしゝあり）
深大寺蕎麥　當寺の名産とす題を産る地裏門の前以ゝ畑わ
真とゝもの甚少し今近隣の村里より産るゝのゝ此名を示ら
難波田彈正城址　深大寺大門松列樹の東の方の岡を云土人を

城山と呼ぶ今ハ麥畑とあるとかも此所彼所ハ湟池の形
残るり此地ハ往古　清和帝の御宇藏宗卿武藏國司
なりし時こゝに住せられしより旧館の跡ハ天文の頃上杉
朝定の家臣難波田彈正忠廣宗松山の城の出張とてこゝに
城廓を構へられしとも

北條五代記曰く上杉修理大夫朝與の嫡男五郎朝定生年十三歳ゆゑ家を
継武州深大寺とゆふる古城を再興し北条氏綱に向ひ弓矢の企ありけり中ハ天文六年
七月廿日かゝれハ難波田あやまりしるしを北条方に山中に張り
よせ一首ハかくぞよまれける
あやしかりしよりてこそたゝかひあれ
と佛殿に躰ハよりけり難波田もさすがに武士なれハ
我作りし古今集の哥をとりあつめ返答あり
我作りし古今集の哥をとりあつめ返答あり
とのもの主君朝定を館に残し置難波田うれかハ松山ハ
浪もこゝに身を全くし忠臣の法といふもあり作者とのひ功者とひ
けりとも勇者とこゝの人々とそ云く

深大寺城跡　深大寺佛堂の後の方の山續ゆゑ一町六七丁を
隔てゝ空堀或ハ柵門抔ありしと覚しき形今猶嚴然たり

北条五代記ハ大永四年の頃氏綱江戸の城を襲ふ上杉
匠作ハ河越の城に引籠り十余年の春秋を送り迎へ
ぬるよりゝ例ありす心ちをかひて天文六年の卯月下旬
世を早く去る嫡男五郎朝定生年十三歳ゆゑ家を継
ぬひぬていれハ七〻日の服忌さへ経ずして道をあゝ兵を
起し深大寺とゆふ古城を再興し氏綱へ向て弓矢の企ハ
なりとあるハ則此所のことなり

醫王山國分寺　寂勝院と号國分寺村にあり府中より北の
方十八町を隔ゝ當寺ハ天平年間行基菩薩草創なる所
聖武天王の勅願所なり中興開山を教心阿闍梨と号
今ハ新義の真言宗なり

藥師堂　本尊藥師如来　開山行基大士の作なり
額　金光明四天王護國之寺　深見玄岱筆

國分寺
本堂
庫裡

國分寺
伽藍旧跡

二王門　石階の中腹にあり　金剛密迹の二像を置　作者未詳
堂林ハ古のままにして舊地ハ半丁わかり南よあり

續日本紀聖武紀曰　天平十九年十一月己卯詔天下諸國別令造金光明寺法華寺下畧

延喜式第二十六巻曰　東國分寺料五万貳千七百東云　東藥師寺料四万二十東梵釋四

同　東鑑曰　王料七千七百五万東云　一宮并國分寺可修復破壊之旨被仰下云云　近國書寺可轉讀最勝王經之由被仰下開東御分國々

行分寺可奉行之云云　然

たのもしくおもはせたまふ世を祈りたまふ寺の跡

二王門旧跡　寺前半町あまりを隔て畑の中に礎石を存せり　南の方の

層塔旧跡　國分寺の東南半丁あまりを隔て草木繁茂せる中に礎石を居ゑ往古千塔の内の中真を収めたるものなり方九尺なり六角の礎なり石畳なる空穴あり

古瓦　二王門旧跡の辺り数百歩の内に往の古瓦の破碎せるものあり皆堅密なり

想像　形全くなれども文様奇妙なり國分寺の古大伽藍の地なり

印せしものなるべし其形を挙て證とす　古瓦の中武蔵國郡の名を

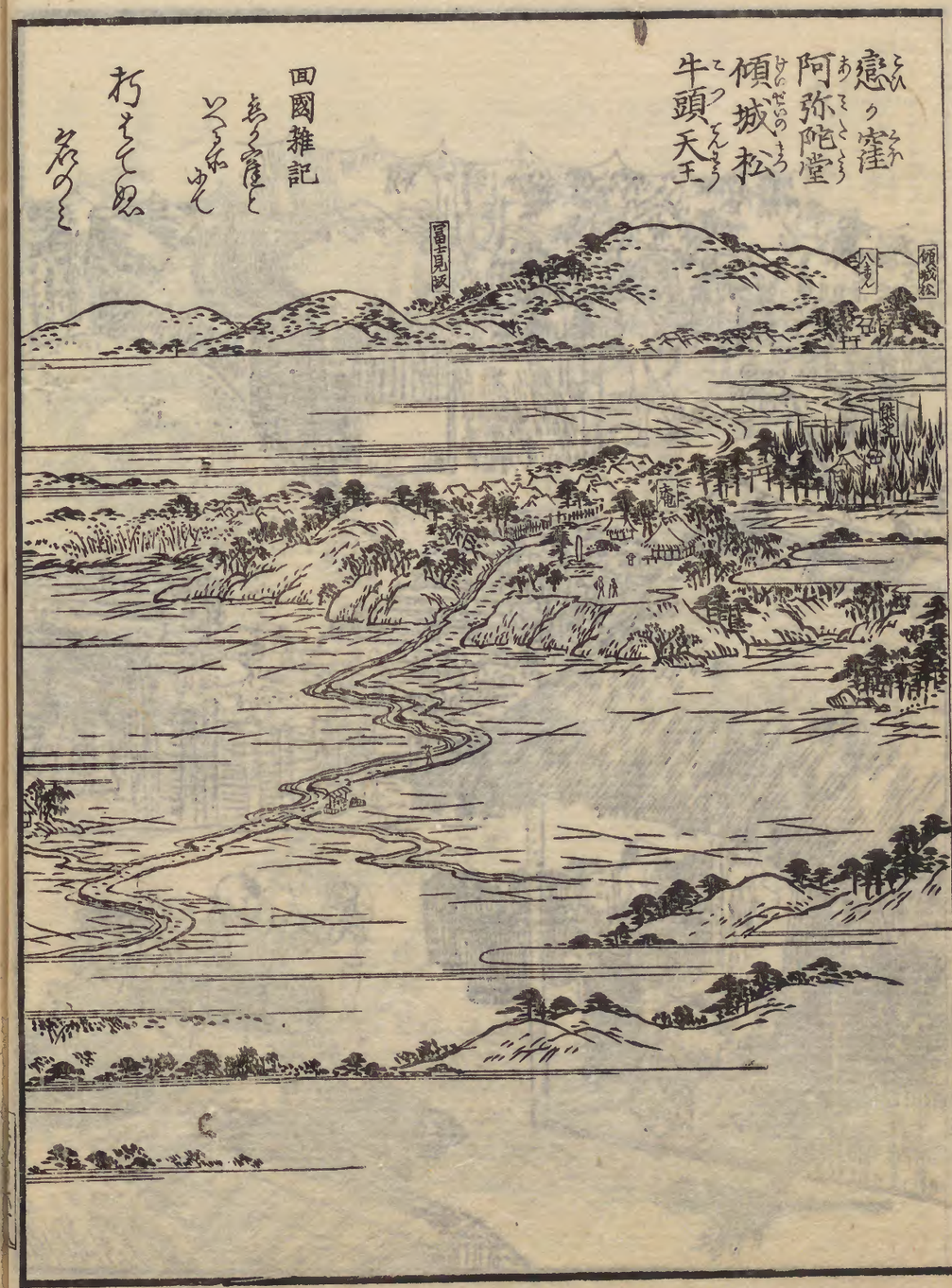
称名院

國分寺碑　藥師堂の前右の方よりあり碑文ハ服元雄中英先生撰む書ハ河保壽ゆ當寺法印賢盛建ふ

當寺往古源頼義朝臣同義家朝臣奥州征伐發向の頃とも當時へ入ひ平の頃ハ盛大の寺院なりしと云あるこの星霜を経て元弘の兵火ゆ亡ひしを新田家ゆて再興ありしも兵革の世終ゆ古よ復せすなり然よ宝暦年間権大僧都法印賢盛衆徒を募て新よ醫王閣を営建し侍る所の灵像を安しく靈跡を表す今古伽藍の礎石の嚴然として田間阡陌の間よ埋もれ懐旧の情を催せり　此寺前畑の中ゆかつて塚地或人云ハ乞食の敵方の首級を掛し地なりとハ傍ゆ乞食の住居しあるん欲ハ頭掛場と依て字ゆ掛場と依て按よ古へ合戦の

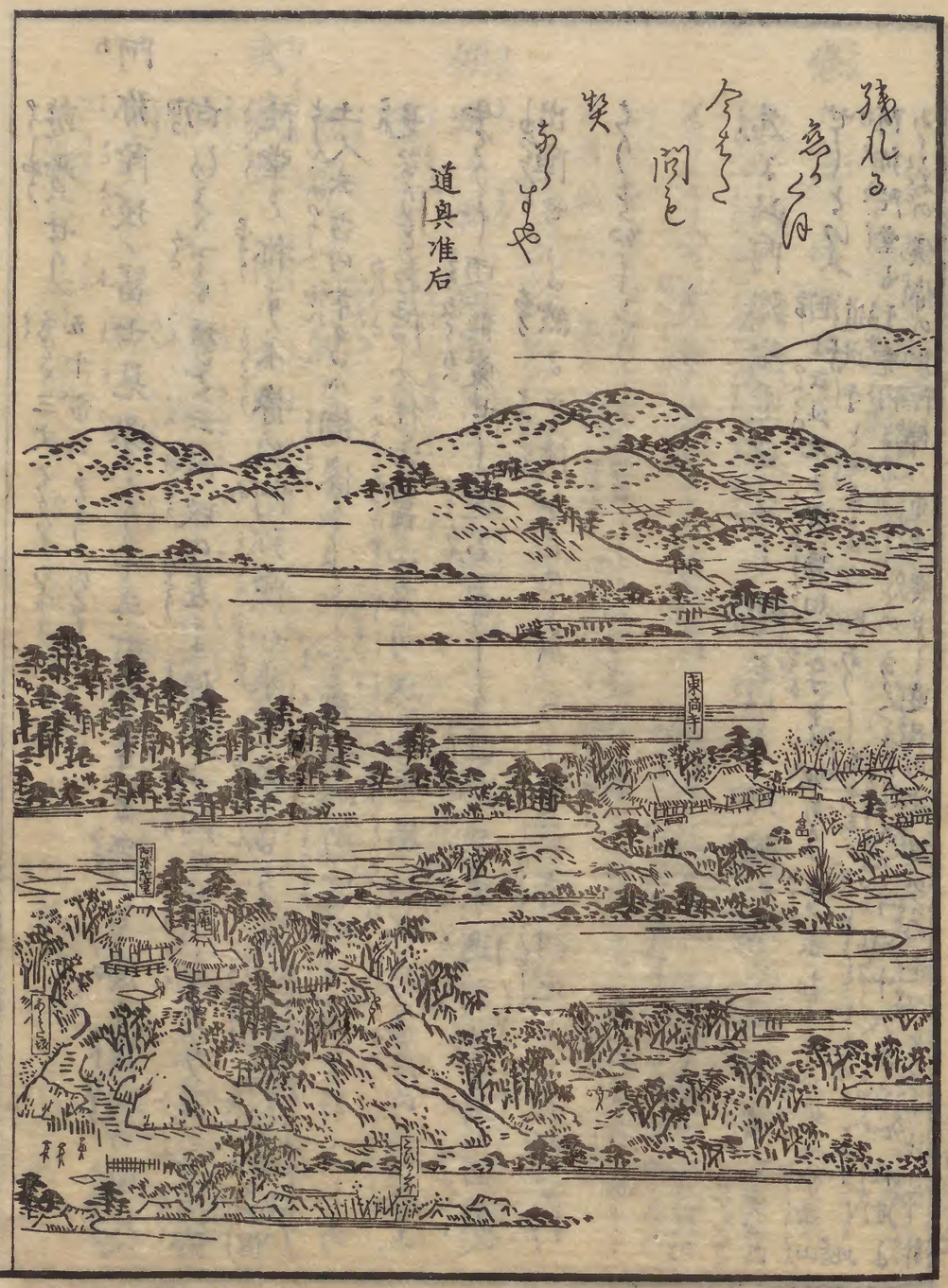
富士見塚　國分寺より西の方五町ゆを隔つ此所ゆ登れハ一瞬千里珠よ奇観なり東ハ浩茫として限なく天涯つるゆ地り接とを見るの中秋の夕月のあきゆて草より出て草ゆ入の古詠よ古を想像て感情少くす此故よ幽人騒客こゆ来て

国立公文書館
National Archives of Japan



意の窪
阿弥陀堂
傾城松
牛頭天王

回國雜記



道與准后

遊賞せり　三丈五十歩ばかりを隔てゝ窓う窪村の地北へ

阿弥陀坂　冨士見塚より十三町あり土人阿弥陀堂と称す木像の阿弥陀如来を本尊とす向ひく下る坂を云此坂の左より傍らる岡ゆ草庵あり（延享四年鶴心と云僧此草庵の廃を興す）今府中六所宮の社地なるもの土人云古のかるハ銅像わ〳〵今府中六所宮の社地なるもの是なりとおもふ往古畠山庄司次郎重忠此地窓う窪の驛舎ゆ出陣せる然る後ものあるく重忠討死しる由の頃ハ重忠平家追討ゆつゝて西國へ出陣せる然る後ものあるく重忠討死しる由の頃ハ重忠平家追討ゆつゝて西國へ

なりしかゝるを實とし〳〵かの遊君歎きのあり終ゆ自殺し〳〵を後重忠ゆくあるれゝ彼遊君ゆ節操を感し菩提の為ゆ此阿弥陀堂建立し鎮を以く弥陀ゆ来の像を鑄て安置せしとゝ（因ゆ云此地ゆ道場（道成寺と号する寺院あり）土人云むゝ此地ゆ無量山阿弥陀堂も境内ゆあり又云今府中六所宮の社地ゆあるゝ私の鎮像の弥陀佛ハ重忠愛せし遊君の菩提のため造立する此佛躰

戀ゆ窪　同所坂より下の低き地をいの古へ東奥北越ゆの國より京師及び鎌倉ゆ至るの驛路ゆく項ハ遊女の家居なりしとゝ（此地ゆ牛頭天王の叢祠あり竹林の中ゆ巳る地あるを古への北國街道の旧址なりとゝ）

田國雑記　恋ゆ窪（今道奥准后詠ゆ窪ゆ佛像の銘文年号ゆを考ゆるを八重忠ゆを時世大ゆ違ひ猶ハ所宮の条下を考へ）

傾城ゆ松　同所艮の方八幡宮の社地ゆあり同し程の古松二株雙立せり土人重忠ゆ愛せし遊君の塚印の松なりとゝ伝へ然れとも社地なるものゆ此八幡宮の神樹なるく〳〵

武蔵野　南ハ多磨川北ハ荒川東ハ隅田川西ハ大山嶽秩父根を限とし〳〵多磨橋樹都筑荏原豊島足立新座高麗比企入間等まく十郡ゆ跨る草より出て草ゆ入又草の枕ゆ旅寝北日數を忘れ向へさ里の遥なり抔代々の歌人袂をしぼりし

御入國の頃より昔ゆ引へ十萬戸の炊煙紫霞とせふ棚引
僅よ平田跡の殘るもの兼應より享保ゆ至る四度迄新田
開發あるゆ耕田林園とあり往古の風光これ〳〵されと月夜
狭山ゆ登りて四隣を顧望せるとき曠野蒼茫千里無限
往古の状を想像まつふたもとり（狭山ハ第四巻の中ゆ入る）

萬葉十四東歌

武蔵野ノ爾宇良敝可多也伎麻左氐爾毛乃良奴伎
美我名宇良爾低爾家里
武蔵野ノ乎具奇我吉藝志多知和可禮伊爾之與
比欲利世呂爾安波奈布與
古非思家波素氐毛布良武乎牟射志野乃宇家良
我波奈乃伊呂爾豆奈由米
伊可爾思氐古非波可伊毛爾武蔵野乃宇家良我
波奈乃伊呂爾低受安良牟
武蔵野乃久佐波母呂武吉可毛可久母伎美我麻
爾末爾吾者余利爾思乎
和我世故乎安抒可母伊波武牟射志野乃宇家良
我波奈乃登吉奈伎母能乎

新古今
[illegible]
（摂政大政大臣）

續古今
[illegible]
通方

玉葉
[illegible]人の[illegible]
右大臣

續千載
[illegible]
[illegible]人

續後拾遺
[illegible]
家隆

新續古今
[illegible]
定家

千五百番哥合
[illegible]
雅経

夫木　花の色も移りもしぬ妻もこれあんの一句集のむさしの原　為實

田園雜記　むさしぬ秋の残月をうらめしく

ひとりぬる　ぬるのと　ぬるのと　野〻の郡　道與

桂林集　むさしぬの長陣せしぬ時　雅后

むさしぬのハ本浦もえんぬ時　直朝

武蔵野記行　天文十六年仲秋の頃　むさしぬをこんと　伊勢

しぬぬるこころうれハ人〻あはれ　中略　ぬぬ

ぬの　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ

むさしぬどのつくをさしてなる入ん形もうくも果てうれハ　氏康

いかにしのぶのやうもあつてうれハ　同

むさしぬのひとりとやなるつ

武蔵野の古奇ハ萬葉集をたしなんと代〻の撰集を餘奇合あつ入家の集ぬぬあまさひとりとも枚挙ようまあんたぬ世ぬ取られしるの其酸うぬうを記しぬる

武蔵野翁　翁ハ其郷姓話らすたゝ都芳門院の一萬士と云院崩るの後齡二十九ゆゝく世を避て諸國を遊歴し此ぬ止る菴を結ひ月ぬ卧して武蔵野の廣を愛を六十年を經く西行法師ぬ邂逅も一宿を投しく通宵古を淡〻涙を緇衲ぬ戯ぬ曉ぬ迨て別る　續扶桑隠逸傳の文意

西行物語　さしていつくをなすともあれハ月のもとぬ入るとぬ月入るとぬ月ぬ

むちくく小萩ぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ

ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ

修摂其心とあるこそ　九十有余と　在於所之

八月十五夜　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ　ぬぬ

[illegible]

紫草

武蔵野の景物なり和名類聚抄無良散岐と訓す

紫ハ最上の色ゆゑに古歌ゆゑ兎の色又位の色抔詠あそせり根を砕く深き所ハ紫の根深又紫の根摺ともいひ女ハ比しとハ縁の色抔もいひ江戸の紫染ハ最絶妙ゆゑに他邦ハ比類なし故ハ江戸むらさきの称あり

延喜式　内蔵寮式曰

紫草二萬二百斤武蔵國信濃國二千八百斤云云

同書曰　民部省式曰

紫草三千三百斤云云

古今

紫の一本ゆゑ武蔵野の草ハみな紫なれとなにしおはゝ

後撰

むさしのハ秋の草なりけりとの葉ごとに露ぞおきける　同

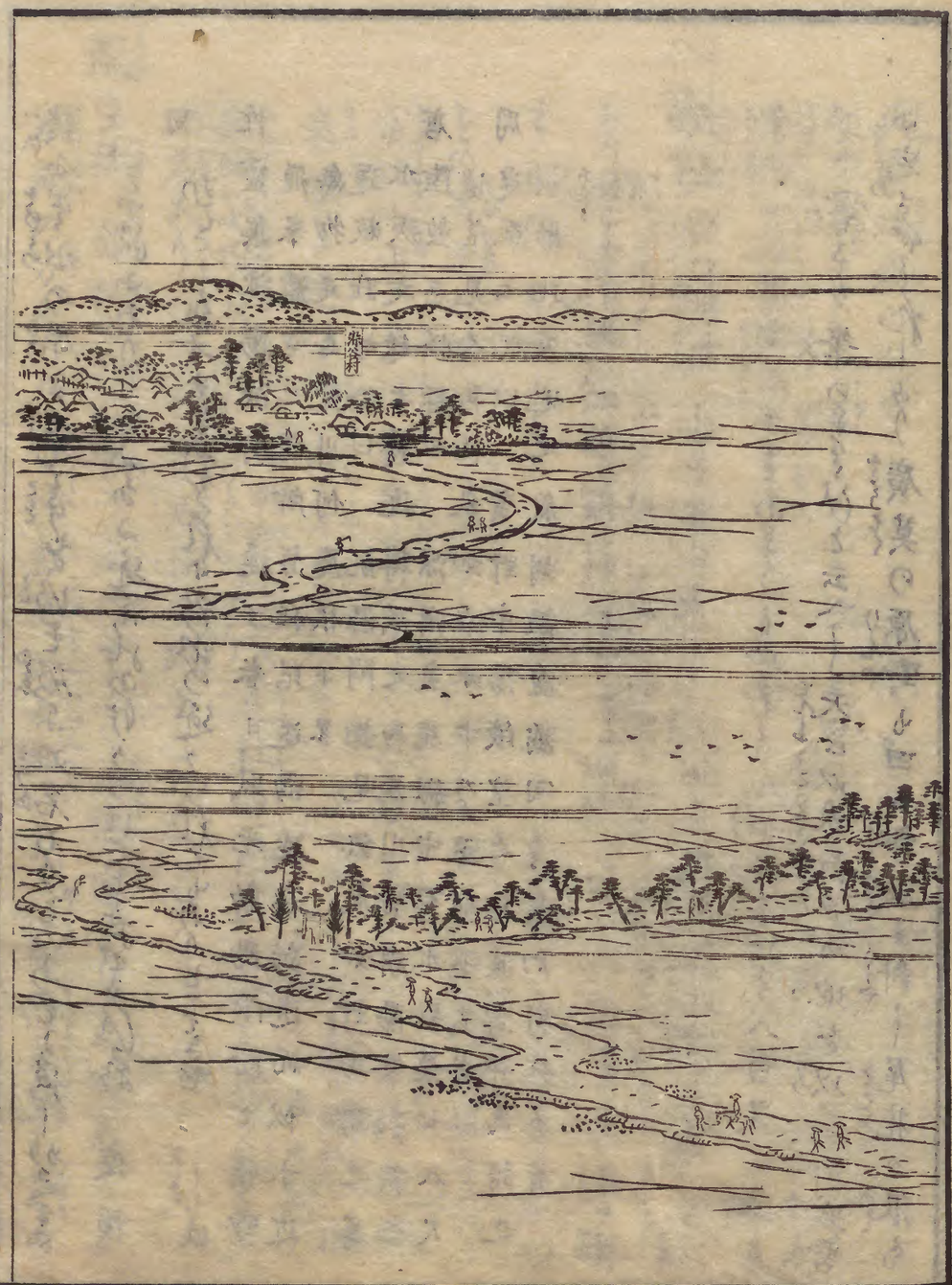
新勅撰

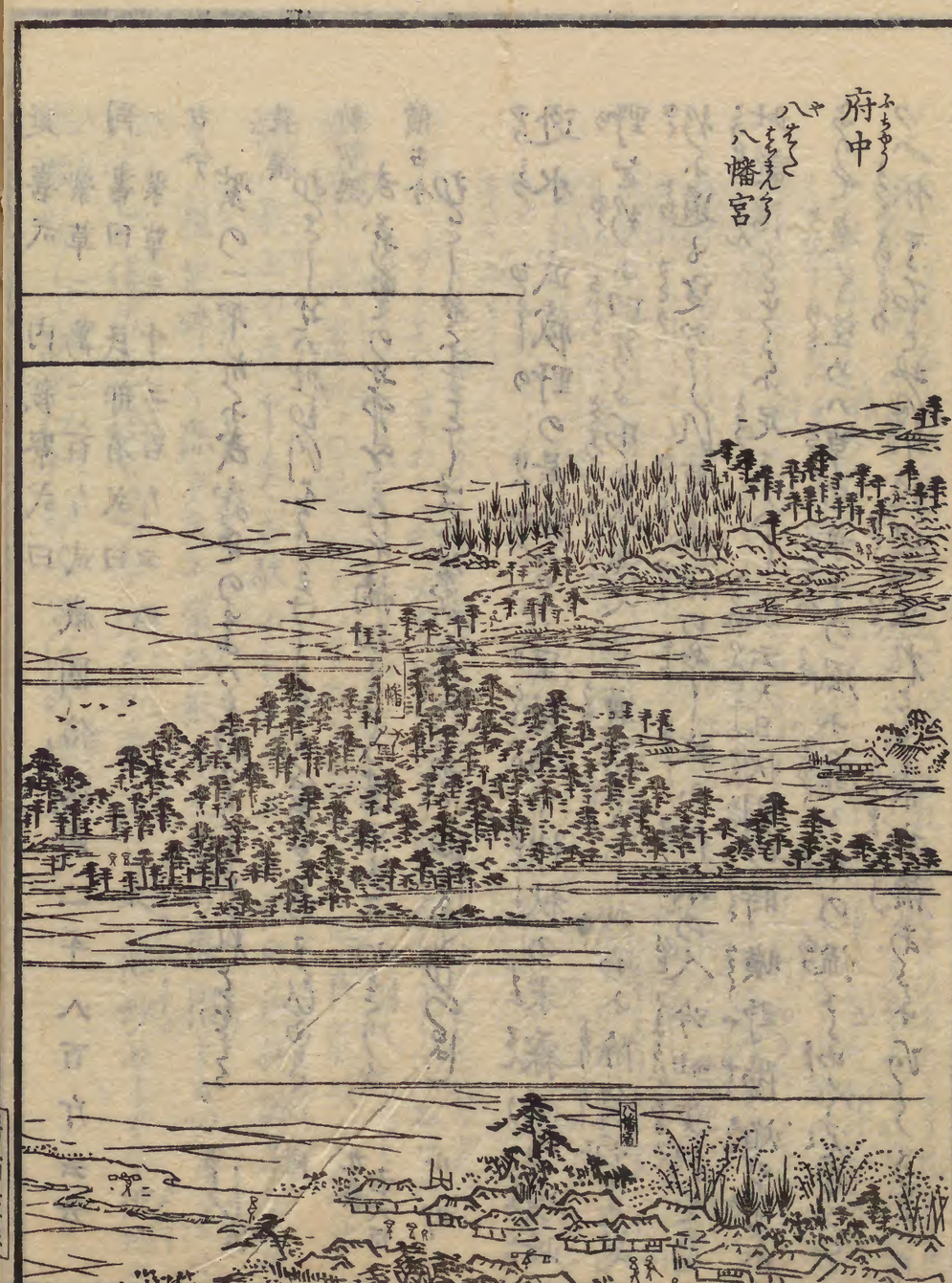
武蔵野の草をなつけて摘初しゝ紫の色ハかゝりゝ　九条右大臣

續古今

むさしのゝ草ゆゑ生しゝ紫の色こゆゑにぬるもつほ　小町

迯水　武蔵野の景物なり里老云く仲秋の末霖雨の頃此野を行ハ四なる所ハ水湛へ通ひ難し此所ハ除彼所ハ道も定なし草根沼の故ハ往来の人吟味歩行を云と此説信とせ足さるへし或云天日快明の時曠野陽炎の所ハ遠く望めハ草の葉末の風ハ靡く水の流るゝを依て地辺へ至れとも素水流あるゝ所ハ





国立公文書館
National Archives of Japan

終ハ水の原ニ至ル也ハ此名ありといへるよし侍り

夫木　東路ハありといふなる逢坂の関　俊頼

同　むさしぬの系かれハ行ぬの逢坂ハ

性靈集詠陽燄喻　遥々春日風光動陽燄紛々壙野飛舉體空々無所有狂兒迷渴遂忘歸遠而似水近

唐陸勲志怪録曰　水疾走趣之轉近轉滅走馬流川皆謂陽炎狀貌也

周慶風土記曰　遥望見人馬往來如在水中乃至前不見水影此天地之氣翊蘊盪滴回薄変幻何往不有

武蔵野の勝槩　名ハ殊更ニ高く凡東西十三里南北十里ありしかん旧記ニ四方八百里に餘ると書るも筆のそゝひと云へし　天正以来江戸の地を以て御城営ハ定させられしより廣莫の原野も田ニ鋤畑ニ耕し尾花ハ浪も民家林藪ハ沿草して万ハ一を残せるのみ　元禄中柳生氏川越を領せられし頃北武蔵野新田開発ハより下宿とハ地の傍ニ原野の形勢を残すと大野と号くる那ハ秋の頃幽情をもとゝの輩ハ遊へり　程江戸ハ十里あまり

八幡宮　府中六所宮の末社ハ甲州街道八幡宿の道より左ハ

祭ハ　應神天皇なり　六所宮の神主猿渡氏兼帯奉祀

す　相傳　聖武天皇の御宇日域の國ニ勅請し宮宮もハの

この皆是八幡村の八幡宮とハ多くハ總社神祠の近ハ

當社も古ハ本社禮殿並ひ建く莊嚴蕩ハ接を瞻

衰敝ニ逮ひ今ハ即茅宮小社なり　四年前ハ老杉一株

暴風ハ吹折て今ハ枯樹明和年間の又社境圃園の中ニ　權ノ正とハ

地名あり　古の宮守居住の跡ハ

瀧の社　當社も六所宮の末社ハ八幡宮より三町あまり

東南の方ハあり　祭神倉稲魂大神なり　社の傍ニ少し斗の

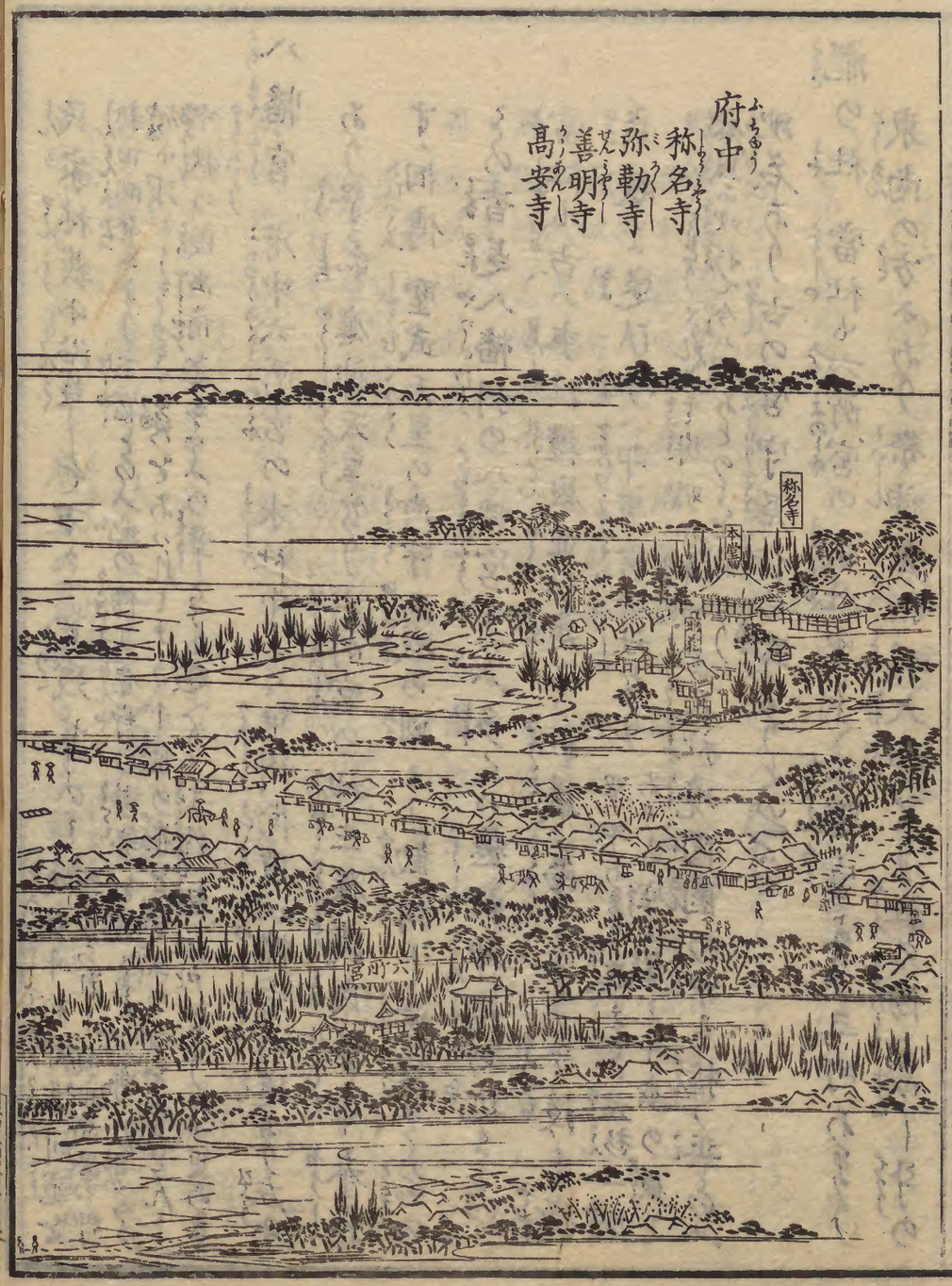
府中

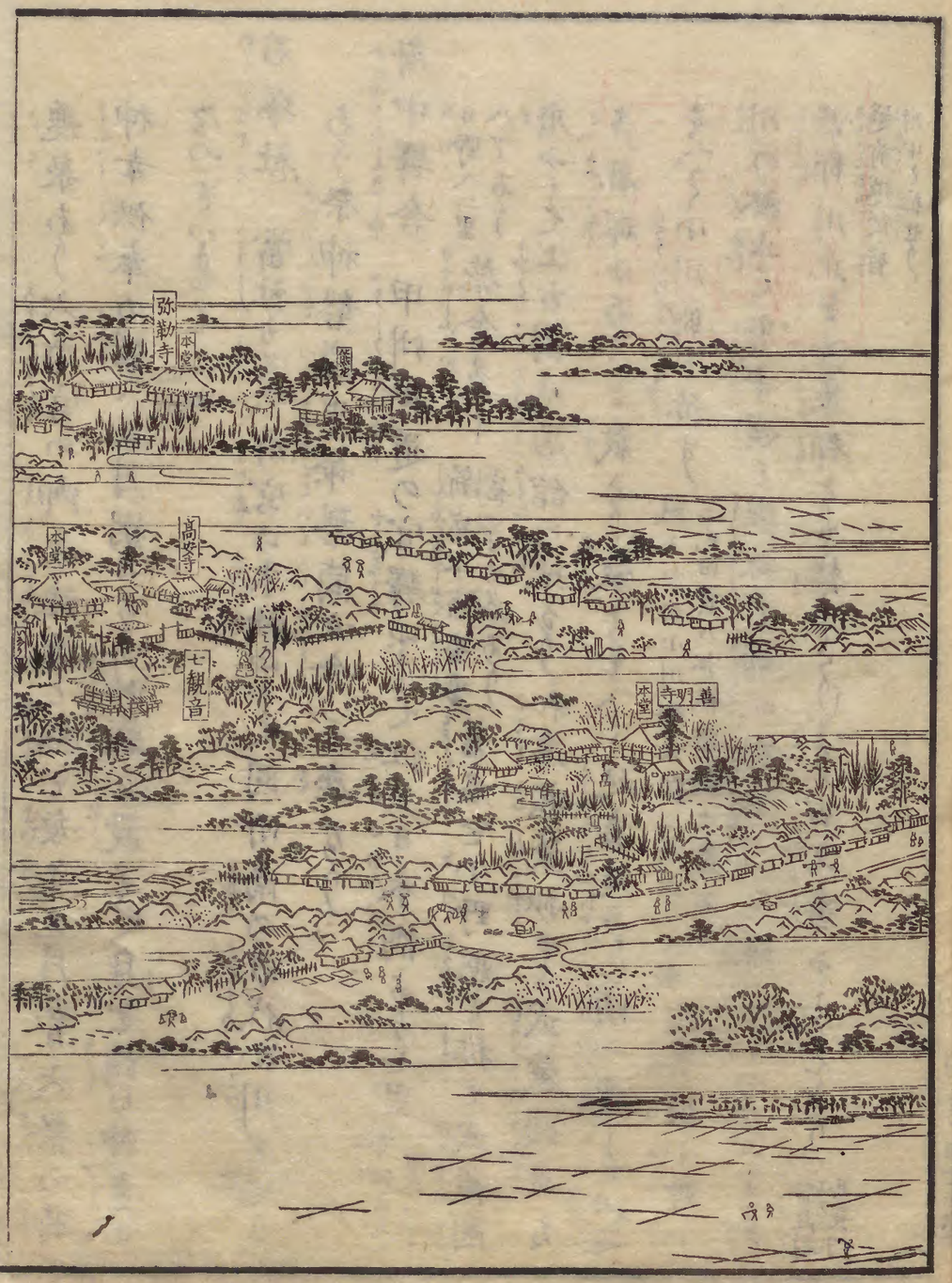
称名寺

弥勒寺

善明寺

高安寺





飛泉あり六所宮の御手洗池と称せ毎年五月五日大祭の時
神幸供奉の輩ハ五月朔日より此瀧ゟ浸ゟ身を清め神支ゟ
たつさはるゝと云
石塚社　當社も又六所宮の末社ゆゑ同所南の方代小川の辺ゟ
あり祭神磐筒男命磐筒女命二座なり
府中驛舍　甲州街道の官驛ゆゑ江戸日本橋ゟ七里布田より一里廿七丁
日野へ二里八丁あり　旅舍多し　新宿本宿番場宿等の名あり　舊名を小野縣と称せ武蔵國
府ゆゑ上古國造居館の地あり　和名類聚抄ゆゑ武蔵國府を
多麻郡ゟありと載ゟり徵とゝへゝ延喜延長の頃一変して此辺
をゝへゝ小川郷と称す　風土記曰小川郷公穀二百六十七束　又其後小野小
川の称止て府中領と總称せ尚此郡玉川を境とゝ川南を多
西郡川北を多東郡とも称ゝゝゝ古文書ゟゝゝゝゝ
越前越後皆府中と称せり
三毛田貢ハ松桃鞍靴之類云ゝ
常陸對馬長門

国立公文書館
National Archives of Japan